

日本独文学会
秋季研究発表会

2012年10月13日(土)・10月14日(日)

第1日 午前9時50分より

第2日 午前10時00分より

会場 中央大学
(多摩キャンパス)

〒192-0393 八王子市東中野 742-1

Tel. 042-674-3739 / Fax. 042-674-3738 (文学部ドイツ文学研究室)

E-Mail: tagung2012chuo@jgg.jp

参加費：1500 円 (学生会員, 常勤職のない会員は 1000 円)

日本独文学会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚 3-34-6 南大塚エースビル 603

Tel/Fax: 03-5950-1147

E-Mail(メールフォーム): <http://www.jgg.jp/mailform/buero>

第 1 日 10 月 13 日 (土)

開会の挨拶 (9:50~9:55) A 会場 (3114 教室)

中央大学 伊藤 秀一
会 長 室井 禎之

シンポジウム I (10:00~13:00) A 会場 (3114 教室)

ゼロ年代の小説 — ^{ポスト・メモリー} 記憶の歴史化と今をつかめ ^{カルペ・ディエム}

Postmemory und carpe diem. Deutschsprachige Romane in den Nullerjahren

司会：山本 浩司

1. 孫世代による祖父母の物語
— ユリア・フランクとジェニー・エルペンベック 田丸 理砂
2. 戦争と DDR の残像 — マルセル・バイアー 桑田 文
3. 77 年とテロルの残像 — ウルリヒ・ペルツァー 山本 浩司
4. 89 年とゼロ年代の DDR 小説 — ウーヴェ・テルカンフ 熊谷 哲哉
5. ゼロ年代の経済小説 — E=W・ヘンドラーとカトリン・レグラ 植松 なつみ

シンポジウム II (10:00~13:00) B 会場 (3454 教室)

Zwischen Körper und Unkörperlichem

司会：Arne Klawitter / Dieter Trauden / Reiko Tanabe

1. Aspekte des Unkörperlichen im christlichen Denken Dieter Trauden
2. Mimesis und Leib — Walter Benjamins Theorie der Nachahmung Dan Morita
3. Das Ästhetische zwischen Feuer und Erde. Zur Un/Körperlichkeit
des Erdgeistes im Goethes *Faust I* Yuho Hisayama
4. Das Schattenspiel als dramatisches Genre in der deutschen Literatur Arne Klawitter
5. Klang des Unkörperlichen – die Stimmästhetik der Oper in der
Neuen Sachlichkeit, besonders der Opern von Paul Hindemith
und Kurt Weill in den 1920er Jahren Jin Nakamura

口頭発表：文学 1（10:00～12:35） D 会場（3353 教室）

司会：亀井 伸治，鈴木 克己

1. アイヒェンドルフの『のらくら者の人生から』における
「子ども」らしさの考察 藤原 美沙
2. 学知と想像力 — ホフマンの『廃屋』における世界認識の
モデルとメスメリズム 土屋 京子
3. 充填される空白
— 『晩夏』における「愛」の諸相をめぐる文化史的考察 — 中野 逸雄
4. ボヘミアの森：シュティフターの作品における〈場所の感覚〉 松岡 幸司

口頭発表：語学（10:00～11:55） E 会場（3355 教室）

司会：小林 正幸，時田 伊津子

1. ドイツ語との比較から見たアフリカーンス語とオランダ語
におけるアспект表現 山藤 顕
2. Die interne Struktur trennbarer Verben Thomas Groß
3. 句例パラレルコーパス構築とその諸問題 阿部 一哉
在間 進

ブース発表（11:30～13:00） F 会場（3201 教室）

ドイツ語の授業導入部における「発声練習」：数字や身近な
語句による発音と綴りの練習 三澤 真

ポスター発表（13:00～14:30） G 会場（3202 教室）

（ポスターは期間中を通じて掲出されています）

表現舞踊に見るコスチュームとマスクの役割
— メアリー・ウィグマンの舞踊詩を中心に — 照井 夕可里

ドイツ語教育部会臨時総会（13:10～14:10）
C 会場（3455 教室）

シンポジウム III（14:30～17:30） A 会場（3114 教室）

文学史・文化史からみたトーマス・クリング

Thomas Kling im Kontext der Literatur- und Kulturgeschichte

司会： 縄田 雄二

1. トーマス・クリングの中世への視線
— „wolkenstein. mobilisierung“を巡って 山本 潤
2. トーマス・クリングの連作詩「魔女」
— 裁判のメディア史の観点から 林 志津江
3. 墓碑としての現代詩 — „Die Aufnahme Mai 1914“ 川島 建太郎
4. Thomas Kling und die Wiener Avantgarde Walter Ruprechter
5. Die deutsche Haiku-Dichtung und Thomas Kling Stefan Buchenberger

シンポジウム IV（14:30～17:30） B 会場（3454 教室）

H.v.クライストの戯曲を読み直す

Relektüre kleistscher Dramen

司会： 高本 教之

1. 「節度も秩序も知らぬ心の動き」
— 『シュロップフェンシュタイン一族』における「自然」 由比 俊行
2. 反復される「反復の苦悩（アンフィトリュオン）」の形式性
— 『アンフィトリュオン モリエールに倣いたる喜劇』
を読み直す 眞鍋 正紀
3. クライスト流「騎士劇」が見せるもの
— 『ハイルブロンンのケートヒェン』を読み直す 高本 教之
4. 『ペンテジレーア』における〈戦争〉の表象
— 比較翻訳読解の試み 新本 史斉
5. クライスト『ペンテジレーア』
— 使者の報告とテイコスコピア 過去と現在 — 猪股 正廣

シンポジウム V (14:30~17:30) C 会場 (3455 教室)

語彙実用論の試み

Lexikalische Pragmatik

司会：森 芳樹

- | | |
|-------------------------------|-------|
| 1. 動詞の語彙情報と可変的振舞い：放出動詞の分析から | 高橋 亮介 |
| 2. 「実用論的意味」の派生：ケーススタディ「アスペクト」 | 田中 慎 |
| 3. 助動詞の意味機能：伝聞と推量について | 板倉 歌 |
| 4. 意味強制におけるモダリティの役割 | 森 芳樹 |

口頭発表：文学 2 (14:30~16:25) D 会場 (3353 教室)

司会：平山 令二, 真田 健司

- | | |
|---|----------------|
| 1. ゲーテの散文作品における杵物語 | 木田 綾子 |
| 2. 終わらないメルヒェンの現場へ — ギュンター・グラス『グリムの言葉』の物語構造 — | 杵渕 博樹 |
| 3. Lichtenbergs Aphorismen — Metapher als Form der Erkenntnis | Johannes Balve |

口頭発表：ドイツ語教育 (14:30~17:05) E 会場 (3355 教室)

司会：吉村 謙輔, 重野 純子

- | | |
|--|------------|
| 1. ドイツ語発音指導についての提言 — 「ドイツ語劇」, 「ドイツ語弁論・暗誦大会」の指導体験から | 林田 雄二 |
| 2. ドイツ語超分節的特徴の習得過程と役割 — 日本語母語話者を事例に — | 村田 優子 |
| 3. Quantitative Visualisierung der Prosodie — Funktionale Datenanalyse bei deutschen Muttersprachlern und japanischen Deutschlernenden | Yuki Asano |
| 4. タンデム学習の特長の考察 — 言語表出困難場面と話題に着目した会話比較から | 北村 美里 |

ブース発表（16:00～17:30） F会場（3201 教室）

ヴァッケンローダーの言語観

馬場 浩平

ドイツ語教育部会「大学ドイツ語入試問題検討委員会」展示・発表
（14:30～17:30）H会場（3203 教室）

懇 親 会（18:00～20:00）

会場：中央大学多摩キャンパス 1号館 1406 号室
会費：5000 円（学生・常勤職のない会員は 3000 円）

第 2 日 10 月 14 日 (日)

シンポジウム VI (10:00~13:00) A 会場 (3114 教室)

プラハとダブリン — 20 世紀ヨーロッパ文学における
二つのトポス (その 2) フリッツ・マウトナーとその射程
**Prag und Dublin — Zwei Topoi in der europäischen Literatur des 20.
Jahrhunderts (2. Teil) Fritz Mauthner und seine Tragweite**

司会・導入 I: 城 眞一

1. チェコの民族運動と言語闘争 — 非自明性打破の手段としての
記号的世界の構築と現実化 — 石川 達夫
2. ゲール語復興とアイルランド民族運動 田多良 俊樹
司会・導入 II: 平野嘉彦
3. マウトナーとカフカ — 仮説の検証 平野 嘉彦
4. マウトナーを読むジョイスとベケット 戸田 勉

シンポジウム VII (10:00~13:00) B 会場 (3454 教室)

再生—進歩—生存: ドイツ思想史における「超人間化」
**Reform, Fortschritt, Überleben:
„Überhumanisierung“ in der deutschen Ideengeschichte**

司会: 香田 芳樹

1. 「わたしは若木のような新たな姿となって星々にのぼっていく。」
— 古代から中世にいたる「死と再生」の形象について 香田 芳樹
2. 神の似姿としての宇宙・国家・人間
— シラーのカバラ的の神人同形論 坂本 貴志
3. Incipit vita nova — 「新生」への夢 今泉 文子
4. ダーウィニストとしてのニーチェ
— 道徳の博物誌からディオニュソス的な肯定へ 清水 真木
5. エルンスト・ユンガーの有機的構成 (organische Konstruktion) と
ベンヤミンの集合体 (Kollektivum) について 大宮 勘一郎

シンポジウム VIII (10:00~13:00) C 会場 (3455 教室)

フクシマ後のドイツ文学 — 語り・行動・パースペクティヴ

Deutsche Literatur nach „Fukushima“ —

Erzählweisen, Handlungsspielräume, Perspektiven

司会 : Mechthild Duppel-Takayama

コメンテーター : 寺尾 格

1. 拡散する文学
— エルフリーデ・イエリネク 『光なし』 における追跡 井上 百子
2. ルポルタージュは震災を伝えられるか
— J・ハーノと R・ツェルナーの日本滞在記を中心に 川島 隆
3. 震災後の民主主義を構想する
— ハインリヒ・フォン・クライスト 『チリの地震』 西尾 宇広
4. Peter Sloterdijks *Du mußt dein Leben ändern* und der Atomunfall
von Fukushima Herrad Heselhaus

口頭発表 : 文学 3 (10:00~12:35) D 会場 (3353 教室)

司会 : 野口 薫, Hans Joachim Dethlefs

1. トーマス・マンの作品執筆における私的朗読会の役割について
— 『ファウストゥス博士』 執筆時の日記を主な手掛かりとして 及川 晃希
2. 「ギーゼルヘルの家臣」ダンクワルト
— 『ニーベルンゲンの歌』 の詩人が創作した人物の意義 野内 清香
3. リヒャルト・ヴァーグナーにおける概念「退廃 (Entartung)」
の変遷 山崎 明日香
4. Zur Dramaturgie des Schweigens
— Kundry in Richard Wagners *Parsifal* Chikako Kitagawa

口頭発表：文化・社会（10:00～11:55） E会場（3355教室）

司会：早坂 七緒, 新井 裕

1. エルフリーデ・ローゼ＝ヴェヒトラーの裸体自画像をめぐって
二階堂 まち子
2. 文献学と歴史 — グリムからベンヤミンまで —
宇和川 雄
3. 絵画における疾風怒濤の一系譜
— フュスリとフューゼリにおける独創性を中心に
今村 武

ブース発表（11:30～13:00） F会場（3201教室）

心態詞が作り出すリズム・イントネーションと意味・機能
の関係
牛山 さおり
生駒 美喜
岡本 順治

ドイツ語教育部会 「大学ドイツ語入試問題検討委員会」展示・発表
（10:00～13:00）H会場（3203教室）

閉会の挨拶（13:00～13:05） A会場（3114教室）

伊藤 秀一

研究発表会期間中、上記のプログラムに加えて、書店・出版社等による書籍展示が行われます。（書籍展示会場：3101・3102・3103教室）